



かなざきひさを応援する会・会報 45号 事務局 上山口 1878 番地の 9 Tel&Fax 878-7961 携帯 090-4076-2425

E-Mail kanazakihi@jcom.home.ne.jp URL <http://members2.jcom.home.ne.jp/kanazakihi/>

平成 22 年度一般会計歳入歳出決算 昨年度に引き続き不認定！

- 葉山町議会第 3 回定例会が開催されました。 期日平成 23 年 9 月 6 日～10 月 6 日

平成 22 年度一般会計歳入歳出決算は賛成者ゼロという結果で、不認定となりました。主な要因は、ごみ焼却施設と、し尿の下水道投入施設の問題でした。

・ごみ焼却炉について

平成 22 年 11 月、クリーンセンターの排出水からダイオキシン類が検出され、現在もごみ焼却炉は停止したままになっております。その間、ごみは民間業者等に処理を委託し、22 年度末までの経費は約 1 億 1072 万円でした。その後の処置も遅々として進まず、将来展望が全くないことが判明いたしました。

葉山町のごみ処理を近隣自治体との協力を基本に行うことを求める決議

森町長のごみ行政は、ゼロ・ウェイスト政策でごみの資源化・減量化を図ることのみであることが確認できました。そのことも、もちろん大切ですが、収集したごみの行く末まで考えるのが、トップとしての責任であり、焼却炉が止まっている状況で、もう猶予はありません。議会として、議員 13 人が委員となっている、ごみ問題特別委員会において、陳情審査をきっかけに、今後のごみ処理方法について議員間で意見交換をし、この決議を町に対し、示しました。賛成者は、かなざきひさ・横山・鈴木・長塚・守屋・田中・中村・荒井・笠原・土佐・山梨・伊東の各議員です。反対者は 1 名でした。

・し尿の下水道投入施設について

クリーンセンター内での、し尿焼却施設を中止し、平成 21 年～23 年の 3 カ年計画で下水道投入施設の建設を予定しておりました。平成 21 年度に 1890 万円で実施設計を済ませており、そして、平成 22 年度には約 6000 万円の予算が組まれておりました。にもかかわらず、予定していた土地が不存在であったとの説明で、計画が頓挫いたしました。議会からは、その原因の究明と責任の所在を明らかにするよう決議をあげましたが、出された結果は満足できるものではありませんでした。そして、23 年度内での完成は断念しており、無責任極まりない森町政に呆れ果てております。

原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換等を求める意見書

かなざきひさが提案し、窪田・横山・鈴木・長塚・田中・中村・荒井・笠原・土佐・山梨・伊東の各議員の賛同を得て、国に対し、葉山町議会として意見書を送付しました。反対者は 1 名でした。

かなざきひさの考え 3 月 11 日の東日本大震災が引き起こした、東京電力福島第一原子力発電所での一連の事故は、重大な被害と大きな不安を国内外に与えました。そして、いまだ、収束の糸口さえ見つけられない状況です。核の平和利用として、原子力発電に頼っている状況ですが、今回の事故で、いったん事が起きると、人間の知恵では抑えきれない、危険を持ち合わせているということを認識すべきです。世界で唯一の被爆国である日本、そして、私の両親も広島市の中心地で被爆し、その悲惨さは身にしみえています。だからこそ、もう一度原点に戻り、みずからの生活を見直し、電力の地産地消を行政、法人そして個人が真剣に考えることができるような国造りを政府に対し、申し入れるため提案しました。

○かなざきひさの一般質問

来年度の予算編成を行う時期ですので、反映すべき事項について質問をいたしました。まず、来年1月に森町長の任期が切れるので、次回の出馬の有無を伺いましたが、「まだ決めていない」との答弁でした。それを踏まえ、森町長にも質問をいたしました。

(1) ごみ問題について

質問と提案	理事者側の答弁
塵芥処理費削減策について伺う。	今後は資源物については行政収集をやめ、集団資源回収を行う。 (町長)
6月議会でも同じ答弁をいただいているが、本当に実現する覚悟があるのか。	24年度は実現させたい。 (町長)
19団体ある集団回収協力団体の方々の協力が必要と思うが、その方針を説明したのか。	まだ行っていない。 (生活環境部長)
4品目の資源物をモデル地区のように10数品目に増やし、すでにある集団回収協力団体を活用するのが、得策と思うが、なぜ説明しないのか。	集団回収協力団体の活用は考えていなかった。 (生活環境部長)
半減袋・戸別収集・資源ステーションの3点が揃わない今、資源物の行政収集を止めるという町長答弁では、今ある集団回収協力団体の活用しかないではないか。	そのような方向でできるよう努力したい。 (生活環境部長)

それでもたまるレジ袋 もう何年にもなります。故郷の漁師さんから魚網で買い物袋を作ってもらい、買い物度にそれを使っていますがそれでも我が家にはレジ袋はたまるのです。なぜ、4000万円の税金を使ってつくる半減袋にこだわるのか。わかりません。

容器包装プラスチックの分別について、町民の方々に手間をかけたうえ、処理費が6万円/tかかり、その他プラの倍額である。なぜ分別をするのか。	町として、リサイクルする方向性に賛同してリサイクル協会に加盟し協力をしている。 (生活環境部長)
リサイクル協会は約1億円の役員報酬を計上している。そのような協会に協力する必要性はない。町財政を真剣に考え、処理費削減のためにも一考するべきである。	処理費は中間処理のためであり、リサイクル協会との契約単価ではない。 (生活環境部長)
ごみ祭日収集の人件費は3000万円である。そのような経費をかけてまで、やる必要があるのか。	祭日は月曜日が多く、それを止めると、特定の地域だけ収集回数が減り、生ごみの臭いが発生し問題となる。 (生活環境部長)
かなざきひさの考え 町として生ごみの自家処理をすすめているにもかかわらず、このような答弁が出ることに矛盾を感じます。ごみ処理費と人件費を検証しても、まだまだ削減できます。自分のお財布と思って真剣に対処するよう訴え、24年度予算はしっかりと見極めたものを提出しよう提言しました。	

(2) 水環境について

質問と提案	理事者側の答弁
24年度の下水道事業は接続していただくための施策の展開をするべきではないか。	その方法について内部で再度検討し対応したい。 (生活環境部長)
合併処理浄化槽設置整備補助事業は市町村設置型の導入を目指し、1割負担で設置できるようにして推進してはどうか。	年間で20件というノルマがあることがネックになっている。 (町長)
水環境の推進のため、1割負担で済むのであれば、協力していただける方はあると思う。20件揃わなければ、町負担でも行うべき事項である。	合併浄化槽の設置は水環境をできるだけ早く改善するというのが最大のねらいであるが、条件がクリアできない。 (町長)
かなざきひさの考え 森町長のマニフェストを信じると、水環境の改善のために下水道事業と合併浄化槽の施策の展開がはかれるものと期待しておりましたが、全く手をつけないうまま4年間が終わろうとしています。どのようにして、水環境の改善を行うのかは、町長の答弁から得ることができませんでした。	

(2) 障害者タクシー券交付事業について

1回の利用にタクシー券1枚しか使用できないことの改善のため、提言を続けましたが、来年度は1回につき数枚の利用ができるようにするとの約束を取り付けました。

(3) 防災について

3月11日の大津波警報発令の際、率先して避難誘導をした11町内会の方々の貴重なご意見を伺い、今後の防災計画に活かす、との答弁を6月議会で受けていたのですが、いまだ履行されておらず、再度、提言しました。

(4) 幼稚園就園奨励事業について

森町長になってから少しの改善もなされてなく、9000円/年のままです。改善要求の陳情が全会一致で採択され議会意思となっておりますので、来年度予算では何らかの改善を行うよう指摘いたしました。

